

式辞

本日、鈴鹿工業高等専門学校を卒業、修了される皆さんと、ご列席のご家族の皆様。今日の良き日を迎えられたことを本校の教職員を代表して、心よりお慶び申し上げます。このたびは、学科192名、専攻科27名がそれぞれ卒業、修了されます。学科卒業の方々には、マレーシア人、モンゴル人の留学生も含まれています。

さて、本日卒業される皆さんの大部分は令和2年に入学されています。ちょうど、コロナ禍が本格化した春でした。私は当時、本校にはおりませんでしたので、詳しいことは存じ上げませんが、入学後しばらくはほとんど学校に来ることができず、リモートでの講義がしばらく続いたと思います。高専の学習では実習が重要ですが、代わりの方法で行われたことも数多くあり、皆さんには不十分な思いをさせたことでしょう。また、入学したときに、皆さんは様々な中学校から進学され、新しい友達ができるときであったのに、同級生ともほとんど会うことができない時期が続きました。様々な学外研修も実施できませんでしたし、外出そのものも制限され、気分が晴れない時期もあったと思います。この5年間で少しずつ状況が変化し、去年の春からは、様々な制約はほぼなくなりました。皆さんにとって鈴鹿高専で過ごした5年間は、コロナ禍とともにあったのかもしれませんが、このような状況の中で、学習や研究のみならず、様々な分野で成果を上げてこられました。皆さんの、それぞれの努力を称えたいと思います。私自身も、この5年間で世の中が大きく変わったと感じます。例えば、以前と比べて、仕事で出かけることが少なくなりました。web会議や電子メールのやり取りで、重要なことを決定したり、相談できるようになりました。つまり、私たちの社会は新しい方法を見つけ出して、移動しなくてもコミュニケーションが取れることが分かったのです。また、以前から働き方改革が必要だと言われていましたが、コロナ禍では自宅で仕事をするリモートワークが定着し、働き方の自由度が増えました。情報・通信技術の進歩のおかげで、大変便利な時代になったと思います。しかし、よく考えてみるとWeb会議のシステムはずいぶん以前からありました。つまり、コロナ禍の到来を、誰も予見していたわけではないのですが、必要な技術はすでに開発されており、ただ使う人が少なっただけなのです。コロナ禍や突然の災害を予測することは難しいですが、科学技術は常に進歩しています。特に、イノベーションを起こす、つまり新しい価値を生み出す技術の開発は、予見

できない未来に向かっての挑戦です。もちろん、成功するよりも失敗することの方が多いですから、イノベーションへの挑戦は誰にもお勧めすることはできませんが、私は今ここにおられる若い方々の中で、何人かが新たな価値を生み出す存在になってほしいと切に願っています。

ところで、本日卒業・修了される皆さん方の半分余りは4月から社会人となります。国立高等専門学校卒業生は、産業界で大変高い評価を得ていることは、よくご存知のことと思います。ぜひ自信をもって仕事に就いてください。本校で学んだ創造性を発揮する精神は、みなさんがこれから経験するであろう困難に立ち向かうのに必ず役に立ちます。大学の3年生に編入学される方々は、高専と大学の学生生活の違いにまず戸惑うと思います。自分を見失うことがないことを願っています。多くは工学部に編入学されますが、可能であればぜひ大学院まで進学されることをお勧めいたします。そして、社会人になる際にはぜひ鈴鹿高専で学んだことを誇りに持っていていただきたいと思います。一方、専攻科に進まれる方は、それぞれの関心のある分野での学習・研究を発展させていただきたいとともに、下級生にとってよき先輩であってください。さらに、留学生の方々はそれぞれ異なる進路が待っています。日本で学んだことをそれぞれの国で活かされることを期待しています。本日卒業・修了される全員の皆様に申し上げます。鈴鹿高専にて得た、様々な人とのつながりを将来にわたって大事にしてください。

今日、ここにお集まりの皆様方、卒業・修了おめでとうございませう。この良き日が、卒業・修了される方々の人生の新たな門出となることを祝福して、私からの式辞といたします。

令和7年3月21日

鈴鹿工業高等専門学校長 藤本慎司